

これは何だろう

3月に入ると雪も固く締まり、スノーシューを履いてスノートレッキングに出かけることにした。夏の間、林の中は下草や棘のある藪に阻まれ、とても歩ける状態ではありません。

しかし真冬の落葉樹林帯は視界もよく、普段は通れないところでも歩くことが出来、葉を落とした梢ではシジュウカラやヒガラ、ヤマガラの集団が観察され、まるで別世界に入ったような気分です。

ふと見上げると、枝先に鮮やかな緑色の小さな袋状の物体がぶら下がっていた。殺風景な景色のなか、鮮やかな色合いで存在感を際立たせているではないか。これは何だ。今から10年ほど前、始めて見つけた時の感動記録です。昆虫に詳しい知人に尋ねたら、黄緑色の物体はウスタビガの繭と分かった。

【ウスタビガはチョウ目、ヤママユ科に分類されるガの一種。カイコはチョウ目カイコ科に属するガの一種で、絹の生産の為にクワコを家畜化した昆虫である。】



この季節の林は見通しもよく、スイスイと歩けます。

美しい黄緑色の繭は天蚕（てんさん）とも呼ばれ、その糸は白い絹糸よりもしなやかでシワになりにくく「繊維のダイヤモンド」と称され超高級糸であると記されている。蚕の繭からとれる絹糸よりも高級品とは恐れ入りました。



見上げると黄緑色の物体が。



鮮やかな黄緑色で、周囲の風景から一段と目立っている。

今年も同じような環境の場所を探してみたら、コナラや桜の枝先に10個も見つかった。普段はなかなか見つからない繭で、宝物を発見したような嬉しい気分になりました。



これが蛾の繭だとは・・・。



繭は強風にも耐える丈夫な糸で、しっかりと巻き付けられていた。